

✓「平和って何だろう？」 私たちも改めて考えてみましょう

今回の研修は絵本「へいわってどんなこと？」の作者、浜田桂子氏から絵本を作られたときのお話をうかがいました。

この絵本では、子どもたちに分かりやすいように「平和」の意味を伝えています。「好きに歌える」「ぐっすり眠られる」といった私たちの当たり前が「平和なんだよ」と子どもたちに伝えながらも、私たち大人には改めて平和のありがたみを伝えてくれる絵本です。

今回の研修では改めて私たち大人が平和について考えることのできる時間となりました。



へいわってどんなこと? 「きっとね、へいわってこんなこと。せんそうをしない。ばくだんなんかおとさない。いえやまちをはかいしない」

いろいろな視点から平和を考え、平和の意味を問い返します。本シリーズは、日本の絵本作家が中国と韓国の絵本作家に呼びかけ、三か国12人の協力で実現した平和を訴える絵本です。三年以上の歳月をかけ、国を越えた意見交換を積み重ね、各国の歴史を踏まえて実現した画期的な

取り組み。(童心社 HP より抜粋)

✓絵本を作るにあたって

この絵本は日中韓12名の絵本作家で作りました。制作にあたり、様々な国の方から意見をもらいました。その中で日本人の目線とは違った「平和」のあり方を知りました。新たな視点を持ち、何度も推敲しながら日本の子どもだけではなく世界中の子どもたちにも平和の意味を伝えられる絵本を作りました。その中で記憶に残っているやり取りを数例紹介します。

【韓国絵本作者の指摘を聞いた浜田氏の感想】

日本人が戦争中に韓国を侵略したことは皆さん学校で習ったことでしょう。「戦争は悲惨だ」という知識や、細かな事例を知れば被害を受けた方々痛みや悲しみは容易に想像できます。ですが「死と隣り合わせの環境」とは実際どのような物か、どんな感情になるのかは想像しにくいと思います。そして実際は想像よりもはるか

に悲惨な物でした。

絵本では「知識」や「事例」しか伝えることしかできませんが、私は少しでも実体験の感情を汲みたいと思いました。また日本人の主観だけではなく、国によって様々な考え方があることを知り「平和の定義」「自分の感覚を変えてみる」ということの大事さを改めて感じました。

戦争では兵士よりも子どもの方がはるかに多く死んでいることはあまり知られていません。戦争を始めるのは大人であって、虫や葉っぱと会話できるような心豊かな子どもたちではありません。私たち大人が「どうしたら戦争を無くすことができるのか？」と考えたときに、今起きている戦争を止めることは非常に難しいですが「僕たちは大きくなっても戦争なんてしないよ」と思える子どもを育てることはできるのではないのでしょうか。

【たばたせいち氏（おしいれのぼうけん作者）の指摘】

私は「平和とは一人ぼっちにしないこと」とずっと思っていました。しかし、たばた氏は「一人ぼっちってとても大事」と仰られたのです。彼も戦争を経験した一人です。

彼はこう仰られました。「戦争になったら嫌が応にも同じ意識を持たざるを得なくなる。お国のためという同調圧力の中で生きていかななくてはいけなくて、個性なんて少しも出しちゃいけない。心を一人にできる場所や時間なんて全く無かったよ。だから自分を解放するために一人ぼっちになることはとても大切なことだと思ったな。」と。

私も戦争を体験した一人ですが、この言葉を聞いて「自分の意思を持てる自由」のありがたみを改めて感じました。嫌なことは嫌と言える自由とはどれだけ素敵なことでしょうか。そのような意思を自分で持てることができ、初めて人と手を取り合う力が生まれてくるのではないのでしょうか。心を抑圧とされることの苦しみを思い出しました。

✓絵本を作るにあたって



絵本の一番メインになるパレード

の場面を様々な国の子どもたちにも協力してもらいました。枠線は私が描きましたが、子どもたちはイエロードラゴン、ハッピードラゴンと名前を付けて素敵なドラゴンを作ってくれました。この活動のために北朝鮮に

も行きましたが、子どもたちが楽しそうに取り組んでいました。

✓絵本を作った子どもたち・読んだ子どもたちの反応

- ・僕は意地悪だったけど絵本を読んで優しくなったよ。
- ・私は仲良くなったり分け合ったりしたい。ふわふわした言葉でみんなを幸せにしたい。
- ・幸せな場面を世界の人々と一緒に描いたことを誇りに思う。
- ・人間って人間だけじゃなくて自然や動物も愛せる存在なんじゃないのかな？ もっと自然を慈しむべき。
- ・生まれてこなければよかったと思ったけど自分は生まれてきて良い存在だと思えた。

✓命とはなんだろう？

私は成人前に両親を亡くしているのですが、若いころの私は「命は消えていく物」という感覚でいました。ロウソクのように少しずつ減っていき、いつか消えていく物だという感じです。しかし、出産を機に考え方が逆転しました。そして、そのときに命は繋ぐものだ実感しました。

両親は亡くなりましたが、私は生きていて、そして新しい命を授かったことに「命は繋がっている」と実感しました。パイプのように、私は両親からの血を子どもへ繋いだのだと。

その奇跡を形に残そうと思いました。初めは出版したいなんて思ってもいなく、自分のために絵本という形で思いを残しました。それが「あやちゃんのうまれたひ」という絵本です。それが出版社の方の目に留まり、ご縁が出版される運びになりました。

私が絵本で伝えたいことは「あなたが生まれてきて幸せになった人がたくさんいる」ということです。自分に自信が無い子ども、生まれてこなければよかったと思っている子ども…そういった子たちに「あなたはとても素敵。もっと自信を持って」と思っしてほしいのです。

「あなたが生まれたことで、あなたのまわりの方がどれだけ幸せになったでしょう」「あなたという新しい繋がりができて、あなたのまわりの方がどれだけ嬉しく思ったことでしょう」。もっともっと自分に自信を持って良いのです。生まれた時点で誰かを幸せにしているのだから、既に喜びを与えている存在なのだから、大袈裟なくらい自信を持って生きて良いんだよと、世界中の子どもたちに伝えたいのです。

また、絵本を出版してたくさんの意見をいただきました。その中で「自分はかけがえのない存在と再確認した」という感想に絵本を出版して本当に良かったと思いました。そして私も「誰かのかけがえのない存在」でいられることをとても幸せに、誇りに思っています。

✓グループ討議を終えた研修者の感想

- ・給食を園児それぞれが食べられる量に配膳しているのですが、そういった保育者の見方（偏見）に子どもたちを当てはめているだけではないだろうかと思いました。小さなことかもしれませんが、そういったことにも配慮して保育をしていこうと思いました。
- ・過去に「生まれてこなきゃよかった」という子どもがいました。保育の中で自尊心ってどう育てればいいのか、未だに答えが出せません。
- ・子どもに悪意は無かったのですが、悪い言い方がトラブルになったことがあります。テレビやネットの影響が大きいと思います。
- ・浜田氏の絵本を読んで、子どもたちに感想を聞いてみたいと思いました。身近なところに平和はあるけれど、当たり前だから気がつかないことも多いなと感じました。でも好きなことができることは平和なんだと改めて思いました。
- ・戦争を子どもに伝えるのは難しいと思いました。保育中でも言葉のやり取りでトラブルは起きます。どうやって解決するか日々悩んでいます。
- ・保育の中で「平和」について話している園もあれば、そうでない園もありました。保育中のトラブルを経て子どもたちが戦争をしない大人になれるよう保育ができればいいなと思います。
- ・平和って言葉にすると難しいですが、子どもってよく見たら平和に溢れていると感じました。
- ・善悪を伝えることが大事だと思いました。それをしっかり伝えて受け止めることが保育者の責務だと感じました。
- ・時々、戦隊物やアニメなどが反映された遊びが展開されていることがあります。もっと素敵な物を伝えていくことが必要だと思いました。

✓浜田氏のまとめ

園というリアルな場所からのお話が聞けて、私自身も違った角度からの見ることができました。保育の現場の方から「もっと子どもたちの自己肯定感が育つ保育がしたい。」「子ども自身が自分を愛することができる保育をしたい。」といったお話が出てきたことは本当に嬉しかったです。